

公 示

一般社団法人日本集中治療医学会定款に基づき、2014年度～2015年度（平成26年度～平成27年度）の役員及び評議員の選出を行います。

役員候補者及び評議員となることを希望する者は、所定の手続きを行って下さい。

なお、理事、監事、会長候補者の届け出用紙は評議員（有権者）に開示致しますので御了承願います。

1. 理 事

一般社団法人日本集中治療医学会定款第19条第4項、理事選出に関する細則に従い、本学会理事任期満了による新理事の選挙を第41回学術集会時に開催される社員総会にて行います。新理事の任期は第41回学術集会終了の翌日より、第43回学術集会の終了日までです。候補者となることを希望する者は、所定の届け出用紙（本学会ホームページよりダウンロード）を用いて、2013年（平成25年）10月31日（当日消印有効）までに学会事務局まで簡易書留にて届け出て下さい。

2. 監 事

一般社団法人日本集中治療医学会定款第19条第4項、監事選出に関する細則に従い、本学会監事任期満了による新監事の選挙を第41回学術集会時に開催される社員総会にて行います。新監事の任期は第41回学術集会終了の翌日より、第43回学術集会の終了日までです。候補者となることを希望する者は、所定の届け出用紙（本学会ホームページよりダウンロード）を用いて、2013年（平成25年）10月31日（当日消印有効）までに学会事務局まで簡易書留にて届け出て下さい。

3. 第45回会長（副会長）

一般社団法人日本集中治療医学会定款第38条第4項、会長および副会長選出に関する細則に従い、本学会第41回会長の任期満了による第45回会長の選挙を第41回学術集会時に開催される社員総会にて行います。第45回会長に選出された者は第42回学術集会終了の翌日より、第44回学術集会終了日まで副会長となります。候補者となることを希望する者は、所定の届け出用紙（本学会ホームページよりダウンロード）を用いて、評議員5名以上の推薦状を添えて2013年（平成25年）10月31日（当日消印有効）までに学会事務局まで簡易書留にて届け出て下さい。

4. 評議員

一般社団法人日本集中治療医学会定款第17条第2項、評議員選出に関する細則に従い、本学会評議員任期満了による新評議員の選出を行います。新評議員の任期は第41回学術集会終了の翌日より、第43回学術集会の終了日までです。候補者となることを希望する者（新任・再任）は、所定の届け出用紙（本学会ホームページよりダウンロード）を用いて、2013年（平成25年）10月31日（当日消印有効）までに学会事務局まで簡易書留にて届け出て下さい。

2013年7月1日

一般社団法人 日本集中治療医学会
理 事 長 氏 家 良 人

日本集中治療医学会
優秀論文賞の募集について

2013年度日本集中治療医学会優秀論文賞の授賞候補論文の募集を行います。
今年度は学術集会会期の関係上2013年10月31日(必着)までに学会事務局に申請下さい。
尚、応募用紙は本学会ホームページよりダウンロードして下さい。

2013年7月1日

日本集中治療医学会
理事長 氏家 良人

優秀論文賞選出内規

第1条 目的

日本集中治療医学会優秀論文賞（本賞・奨励賞）を設け、集中治療医学の発展に寄与する。

第2条 対象

- 1) 筆頭著者が日本集中治療医学会会員であること。
- 2) 対象論文は、本学会総会の前々年10月から前年11月の間に本学会機関誌に掲載、あるいは本学会学術集会において発表後権威ある学術誌に掲載された原著論文とする。

第3条 選考委員会

選考委員会は次の構成とし、理事会の議を経て理事長が委嘱する。選考委員会は学術集会会長が委員長となり選考を行う。

1. 本会会長、前会長ならびに次期会長
2. 機関誌編集委員会より1名
3. 評議員より4名

委員の任期は、2.は3年、3.は1年とする。

第4条 募集方法

- 1) 選考委員長は年1回、候補論文の募集を行う。自薦または他薦による。
- 2) 候補論文は別に定める優秀論文賞選考の申し合わせ事項に従い公募する。
- 3) 機関誌編集委員会は候補論文を推薦できる。

第5条 選考方法

- 1) 選考委員会は別に定める優秀論文賞選考の申し合わせ事項に従って最終候補論文を選出する。
- 2) 受賞論文は理事会の議を経て決定する。
- 3) 受賞論文は年3編以内とする。

第6条 受賞

賞状ならびに賞金を本学会年次総会において会長より授与する。賞金額は、当面本賞1件20万円、奨励賞1件10万円とする。

第7条 受賞者は、同年度の学術集会において該当論文内容を報告しなければならない。

第8条 基金

第13回天羽会長よりの寄付金を基金とし、その他寄付金を受け付ける。基金の管理運用は理事長が行う。

付 則

この内規は、1986年3月1日から施行する。
この改定は、2001年5月18日から施行する。
この改定は、2002年1月11日から施行する。
この改定は、2003年5月1日から施行する。
この改定は、2004年3月5日から施行する。
(ただし、理事長に関する事項は2005年2月23日から施行する。)
この改定は、2005年12月22日から施行する。
この改定は、2013年1月31日から施行する。

会 告

第41回日本集中治療医学会学術集会（第3報）

第41回日本集中治療医学会学術集会

会長 氏家 良人

〒700-8558 岡山県岡山市北区鹿田町2-5-1

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科救急医学分野

テ ー マ： 集中治療 —マルチプロフェッショナルの心・技・知を集めて！—

会 期： 2014年（平成26年）2月27日（木）～3月1日（土）

理事会と評議員会を2月26日（水）に行います。

会 場： 国立京都国際会館，グランドプリンスホテル京都

演 題 申 込： 2013年7月17日（水）午前～9月17日（火）正午までです。すべての演題は学術集会ホームページ上でのオンライン受付のみとします。

最 新 情 報： ホームページ「第41回日本集中治療医学会学術集会<http://www2.convention.co.jp/41icm/>」にて随時更新していきます。

<学術集会概要>

学術集会の概要につきましては、2013年6月初めの時点での予定企画情報を掲載しております。プログラム名や講演者は変更になる可能性があります。

注：英語講演とあるものには、併催される第14回日韓集中治療コンGRESS（The 14th Joint Scientific Congress of JSICM and KSCCM）との共通プログラムが含まれております。

I. 会長講演

氏家 良人（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科救急医学分野）

II. 鼎談“専門医制度，特定看護師，終末期…”

日本麻酔科学会 理事長 外 須美夫（九州大学大学院医学研究院麻酔・蘇生学）

日本救急医学会 代表理事 行岡 哲男（東京医科大学救急医学講座）

日本集中治療医学会 理事長 氏家 良人（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科救急医学分野）

III. 特別講演，岩月記念講演

交渉中

IV. 招請講演 (Invited lectures)

1. ABCDEバンドルとマルチプロフェッショナルチーム（英語講演）

ABCDE bundle with multi-professional team

2. ICUにおける免疫系のモニタリング（英語講演）

Immunomonitoring in the ICU

3. アジアと世界における集中治療（英語講演）

Intensive care in the Asia and in the world

4. 重症敗血症と敗血症性ショックに対する国際治療ガイドライン（英語講演）

International guidelines for management of severe sepsis and septic shock

5. ARDS —ベルリン定義と病態生理, 治療— (英語講演)
ARDS —the Berlin definition and pathophysiology and treatment—
6. ICUにおける栄養管理ガイドライン —ESPENとASPENの違い— (英語講演)
The difference of the nutritional guidelines for ICU patients between ESPEN and ASPEN
7. ケアとキューアが融合した集中ケア看護

V. 教育講演, 共催セミナー講演

1. ICUにおける疼痛, 興奮, せん妄対策, 治療 (英語講演)
The management of pain, agitation, and delirium in ICU
 2. ECMOはいつ始めるべきか? (英語講演)
When should ECMO be introduced?
 3. ICUにおける低体温療法 (英語講演)
Therapeutic hypothermia in ICU
 4. 重症敗血症に対するECMO (英語講演)
ECMO for severe sepsis
 5. 小児人工呼吸管理における最新のトピックス (英語講演)
Current topics in pediatric mechanical ventilation
 6. 重症ARDSに対する最新の呼吸戦略— (英語講演)
Current respiratory strategy for severe ARDS
 7. ICU患者の睡眠検査とその評価 (英語講演)
Sleep examinations and the assessment in ICU patient
 8. ICUにおけるa-EEGの有用性 (英語講演)
Amplitude integrated EEG (a-EEG) monitoring in ICU
 9. 予後を改善するためのICU環境をいかにデザインするか
How to design ICU environment to improve the outcome (英語講演)
 10. Compromised hostにおける感染症とその治療
 11. ICUナースのメンタルヘルス
 12. 危機的的患者家族の看護
 13. VAPとventilator-associated eventサーベイランス
 14. ICUの経済性と診療報酬の適正化
 15. ICUにおける栄養とリハビリテーション
 16. 急性期医療における臨床倫理
 17. 医療機器感染対策のピットフォール
 18. 酸素療法の新たな展開 —ハイフローセラピーの可能性—
 19. 呼吸理学療法の最新エビデンス
 20. ICUにおける嚥下障害の評価と治療
 21. 早期リハビリテーションにおける心肺腎連関
 22. 集中治療領域における災害対応
 23. H7N9インフルエンザと治療戦略
- その他, 計画中

VI. シンポジウム, パネルディスカッション

1. 各国のICU専門医制度と専門医教育, 評価システム (英語講演) (指定)
The educational system and examination for ICU board in the world.
2. 日韓合同シンポジウム 「小児集中治療」 (英語講演) (指定)
Japan-Korea joint symposium 「Pediatric Intensive Care」
3. 重症呼吸不全に対するECMO治療システムをどう構築するか (一部公募)
4. 脳低体温療法 (一部公募)
5. 集中治療領域の特定看護師と医行為 (一部公募)
6. ICUにおける職種間連携に必須な条件 (一部公募)

7. せん妄患者へのチームケアアプローチ (一部公募)
8. ICUの中堅看護師の教育 (一部公募)
9. 重症化を回避する看護援助 (一部公募)
10. 生命維持管理装置と臨床工学技士のこだわり (一部公募)
11. 臨床工学技士の呼吸療法に対するアセスメント (一部公募)
12. 集中治療領域で理学療法士が活躍するためには何が必要か (一部公募)
13. 早期リハビリテーションの効果をどのように評価するか (一部公募)
14. ICUにおける心臓リハビリテーションの帰結評価を考える (日本心臓リハビリテーション学会共同) (指定)

VII. ワークショップ(すべて指定)

1. 日本版PADガイドライン作成
2. 日本版ICU患者の栄養管理ガイドライン作成
3. 人工呼吸器離脱プロトコール作成
4. ICUにおける臨床工学技士共通テキスト作成に向けて
5. ICUでのリハビリテーションのあり方Ⅰ 心疾患・呼吸器疾患
6. ICUでのリハビリテーションのあり方Ⅱ 脳血管疾患・整形外科疾患
7. HCUの現状と問題点
8. 集中治療最新文献厳選55

VIII. ディベート(すべて指定)

1. 酸塩基平衡の評価にStewart Approachは有用である
2. 敗血症治療にガンマグロブリンは有用である
3. 重症患者の経腸栄養は幽門後投与が第一選択である
4. 敗血症診療ではガイドラインSSCGより日本版ガイドラインが有用である
5. CRRTのNon-renal indicationは存在する
6. 非経口栄養は入室8日目以降に投与を考慮する
7. 大学病院ではICUからPICUを独立させるべきである
8. PAVはPSVに勝る
9. ICU患者の必要エネルギーは20～25 kcal/kgである
10. 我が国においてECMOセンター (ECMOの集約化) は必要である
11. ネーザルハイオフローはNPPVの代替療法となりうる
12. ARDS基準を満たす間質性肺炎にステロイドパルスは有用である
13. 重篤な気管支喘息重積発作には吸入麻酔薬を第一選択とすべきである
14. 敗血症性ショックの初期輸液にはリンゲル液よりもアルブミンを優先して用いる
15. TSSの抗菌薬として β ラクタム系にクリンダマイシンを併用する
16. 重症患者でグルタミン負荷は必要である
17. Prone positionは重症ARDSに有用である
18. 48時間の筋弛緩薬は重症ARDSに有用である
19. ICUにおいて人工鼻は加温加湿器より有用である
20. a-EEGは小児集中治療において必須である

IX. 症例検討(症例は変更の可能性あり)

1. 重症感染症
2. 重症熱傷
3. 小児心臓外科術後管理
4. 凝固線溶異常
5. 終末期医療
6. 急性中毒

X. 委員会報告

1. 小児集中治療委員会報告 「小児敗血症診療に関する提言」, 「小児栄養管理多施設調査」
2. 倫理委員会報告 「終末期ガイドライン」

XI. リフレッシュャー講演

1. 新しい呼吸管理：NAVA, Nasal high-flow, Esophageal pressure monitoring
2. ECMO入門
3. 日本と世界の敗血症ガイドライン
4. 疼痛管理のピットフォール
5. ICUにおける体温管理
6. Difficult airway management
7. エコーガイド下中心静脈穿刺
8. Post cardiac resuscitation syndrome
9. 早期離床のためにベッドボードはこう読め
10. 低体温療法の適応と実際
11. AKIの診断基準と治療戦略
12. 重症度スコアとその意義
13. 医師以外のICU医療職に対する超音波入門
14. 各種血液浄化法とその使い方
15. 中枢神経系集中治療管理
16. Rapid response system (RRS) の最新の知見
17. PADとABCDEガイドライン
18. 循環管理のモニタリング
19. ICU患者の栄養管理入門
20. 深部静脈血栓のモニタリングと治療

XII. 優秀論文

XIII. 一般演題(ポスター発表)

XIV. サテライト研究会, 講習会

準備中

<演題申込>

インターネット経由による応募のみといたしました。応募された演題の著作権は、日本集中治療医学会に帰属し、ホームページ上に掲載され、全文検索の対象となりますのでご了承下さい。

注意：ヒトを対象とした研究発表では、ヘルシンキ宣言(2000年10月, エジンバラ)に基づき、所属機関の倫理委員会の承認を得て行った研究を発表して下さい。また、症例報告では、患者のプライバシー保護のため、患者が特定できるような表現はご遠慮下さい。日本集中治療医学会ホームページ掲載の「集中治療領域における研究ならびに利益相反(COI)マネジメントに関する指針」ならびに「同施行細則」に従って、開示する義務のあるCOI状態があれば、学会抄録あるいは発表スライド・ポスター等において自己申告して下さい。

演題の応募者は、発表者、共同発表者にかかわらず、日本集中治療医学会の会員に限ります。未入会の方は**必ず入会手続きをお願いいたします**。

なお、入会手続きにつきましては、本会ホームページ(<http://www.jsicm.org/>)の「入会案内」をご参照いただくか、または、送付先の住所、氏名を記載した返信用封筒(80円切手貼付)を同封し、入会申込書必要部数を明記して下記までご請求下さい。

請求先：〒113-0033 東京都文京区本郷3-32-6 ハイヴ本郷3F
日本集中治療医学会事務局
TEL：03-3815-0589

■演題応募アクセス方法

第41回日本集中治療医学会学術集会のホームページ (<http://www2.convention.co.jp/41icm/>) にアクセスし、演題応募ページの要領に従って必要事項を入力し、送信して下さい。

■演題応募受付期間

2013年7月17日(水)午前～9月17日(火)正午まで

■連絡先

第41回日本集中治療医学会学術集会の運営に関するお問い合わせは、日本集中治療医学会事務局ではなく、下記の学術集会事務局宛にお願いします。

1. 第41回学術集会事務局

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科救急医学分野内

〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1

TEL：086-235-7426

FAX：086-235-6601

E-mail：jicm41@cc.okayama-u.ac.jp

事務局長：岡本 知子

事務局：渡部 友紀, 松本 智子

学術部門幹事

市場 晋吾, 鶴川豊世武(医師部門)

難波由美子, 加藤 湖月(看護部門)

伊藤 英史, 林 久美子(臨床工学技士部門)

2. 第41回学術集会運営準備室

日本コンベンションサービス株式会社関西支社

〒541-0042 大阪市中央区今橋4-4-7 京阪神淀屋橋ビル2階

TEL：06-6221-5933

FAX：06-6221-5938

E-mail：41icm@convention.co.jp

担当：中村 惇, 梅田 恭央